

令和7年度 都城市立西中学校 第【5】回学校運営協議会報告書

日 時	令和8年 2月12日（木）18時30分～19時30分	
場 所	西中学校 会議室	
参 加 者	委 員	赤塚 隆志、森山 和江、柏木 健一郎、下原 政広、森山 数也、川崎 和也
	事務局	三浦 徹也、衛藤 卓哉、横山 健二
	その他	
会 次 第	1 開会のことば 2 都城市民憲章朗読 3 学校運営協議会会長あいさつ 4 学校長あいさつ 5 学校の現状 6 学校運営協議会委員の評価と考察 7 意見交換 8 次年度の取組について 9 閉会のことば	
協議内容	1 学校の現状 ○ 小さなトラブルや、個人的に指導を要する状況はあるが、全体としては落ち着いた学校生活を過ごせている。奉仕的な活動、元気なあいさつができる状況である。 ○ 不登校、支援を必要とする生徒への対応のあり方が、西中学校の大きな課題であるが、SSRのサポートを民生委員さんに協力をいただいている。次年度に向けて、都原児童館の図書館の開放の協力がいただけそうな状況である。 ○ 学校全体で、A1ドリル（キュピナ）の活用の活性化図り、成果が出はじめている。 2 学校評価の学校運営協議会委員の評価と考察 ①豊かな心の育成 成果：あいさつ運動やスポーツゴミ拾い等の先進的な奉仕活動への積極的参加を高く評価 課題：新校時程での清掃時間短縮や、保護者の奉仕作業参加率低下に伴う美化意識の維持 方向性：道徳教育の充実と、生徒の本音を引き出す環境作り、家庭の教育力向上への啓発 ②基本的生活習慣の定着 成果：校外でのあいさつや規範意識は概ね良好、生徒主体の校則見直しプロセスを評価 課題：交通ルールの遵守と提出期限の徹底、一部の意識の差（個人差）への継続指導 方向性：命を守る指導の継続、価値観の多様性を踏まえた学校・家庭・地域の連携強化 ③学習意欲の向上 成果：AI教材（Qubena）の活用活性化などのICT活用の創意工夫 課題：家庭学習の習慣化は家庭の責任も大きく、保護者の意識変革を促す仕掛けが必要 方向性：個に応じた習熟度別課題の提示と夢を育むキャリア教育との連動 ④地域社会との連携・学校運営 成果：地域行事への参画は活発で評価が高いが、一部の参加固定化（二極化）が課題 課題：働き方改革は学校単独での解決が困難。市全体での足並みを揃えた推進が不可欠 方向性：教職員の負担軽減を図り、探究学習を核とした持続可能な地域連携体制の構築 3 次年度の新校時程・働き方改革等についての報告・協議 ○ 学校の働き方改革①（新校時程の施行期間を終えて）について ・今後の見通しについて【モジュールの有効活用（補充・探求学習・勤労奉仕）】 ○ 学校の働き方改革②（部活動運営のコンパクト化） ・全部活動の外部指導者配置努力 ・部活動支援（保護者ボランティア等の理解・促進） ※新校時程は、生徒と教職員のウェルビーイングの推進に資するものである。	
そ の 他	○ 学校の働き方改革（部活動改革）、不登校生の対応等については、市の施策などに受け身ならず、アドバイスをいただきながら西中学校としてできる努力をさらに続けたい。 ○ 学校施設の老朽化に伴う修繕等の必要性が増えている。 ○ 今年度、ペーパーレス化がかなり進んだ。さらなる事務作業の効率化を図る。	